

市民と共に考え行動するまちづくり



障がい者施設、京都伝統工芸大学校、南丹保健所で協働開発した「京のつちたま」づくり

パートナーシップを育てる

これからのまちづくりは「市民協働」が重要なキーワードとなります。市民と行政がそれぞれの役割を明確にし、お互いにパートナーであるという認識を持って、一緒になってまちづくりを進めていくものです。現在、「市民と共に担うまちづくり手法検討委員会」で、その手法やルールづくりについて協議が重ねられています(24)。

市民協働による取り組みの一つ、「南丹市国際交流協会」が3月末に発足。市民の皆さんが中心となって国際交流事業を展開されます(25)。また、地域の伝統行事や地域文化の熟練者など多様な人材を掘り起こす人材登録制度「達人バンク」を新たに設けます(26)。市民の皆さんの活躍の場として、優れた技能をまちづくりに生かしていただきたいと思えます。

また、市内に数ある大学などと連携した取り組みも進め、学生の力を地域活性化につなげていくとともに、「学生のまち」として学生にとって暮らしやすいまちを目指します(27・28・29)。

24 市民協働推進事業

47万円

25 国際交流事業

(新規) 204万円

26 達人バンク推進事業

(新規) 13万円

27 大学等連携協力事業

21万円

美山で大学などと連携したフォーラムを開催

28 ふるさと共援活動支援事業

130万円

過疎化・高齢化が進行した地域と大学などが連携して集落の再生を図る(平成20年度美山町福居地区、平成21年度日吉町五ヶ荘地区で実施)

29 産官学公連携協議会補助金

52万円

美山まちづくり委員会、佛教大学、市が取り組む地域づくりや教育研究活動への助成

広くお知らせし、広く聴く

市民の皆さんと協力して進めていく市民協働のまちづくりを実現するためには、情報を共有することが必要です。市の状況や取り組み施策について、ご理解いただくために「広報なんたん」や「お知